

中部圏・近畿圏直下地震モデル検討会について

1. モデル検討会設置の趣旨

過去の事例によると、西日本においては、活断層の地震により甚大な被害をもたらされた事例や、南海トラフ地震の前後に活動が活発化した事例があり、府県を越えて市街地が広がっている中部圏・近畿圏で大規模地震が発生した場合の被害は甚大かつ広域にわたると想定される。

このため、中部圏・近畿圏直下地震に係る先行的調査・検討を踏まえ、平成 20 年の中央防災会議で想定した中部圏・近畿圏直下地震モデルを見直し、現時点の最新の科学的知見に基づきあらゆる可能性を考慮した中部圏・近畿圏直下で発生しうる地震モデルを検討し、震度分布等を推計することを目的として、検討会を設置する。

2. 主な検討課題（案）

- 中部圏・近畿圏直下地震に係るこれまでの研究成果の整理
- 新しい知見を活用した中部圏・近畿圏直下地震に係る地震動推計手法の見直し検討
- あらゆる可能性を考慮した中部圏・近畿圏で発生する最大クラスの地震動モデルの設定
- 中部圏・近畿圏直下地震による震度分布等の推計

3. 検討スケジュール（案）

- | | |
|----|--------------------|
| 春頃 | 対象とする地震の決定、計算手法の決定 |
| 秋頃 | 震度分布等の推計 |